



## 助けられ大賞

# 「わかってください」

～我が子の理解を地域に求めて～

**住 田 靖 代(広島県廿日市市)**

私の息子は、中学三年生。「障害」をもっています。注意欠陥多動性障害と学習障害をもつ障害児で、俗に言う「手帳がもらえない子」です。

身体の成長に似合わず、幼児のオモチャを好み、それで遊ぶ。バッタやセミ、トンボなどの昆虫が大好きで、時間や周囲の状況などお構いなしに、それに集中すると固まって動かなくなることがあります。

そんな息子の行動を母親として受容し、「前向き」になるまでには多少の時間はかかりましたが、バイタリティーのある旦那（主人）の力もあって、息子との関わりの時間が楽しく思えてきました。

そう思えるようになった頃、あれは息子が小学校 5 年生の時でした。ご近所の方々から見れば、息子の妙なコダワ

りや年齢にそぐわない遊び、立ち回り…。

「おかしな子じゃのう」

「ありゃ、親の育て方が悪いんじゃない」とでも言いたそうな目で息子を見ます。私を見ます。

「私はちゃんと、この子を見てる！この子と関わりをもっている！この子はヘンじゃない！」。

そういうことを地域の人たちに知ってもらいたい。この子だけじゃない。地域の中には、この子と同じ障害をもつ子どもたちがいるはず…。そう思った私は、チラシを作りました。『うちの子は、注意欠陥多動性障害・学習障害です。どうかご理解をお願いします。わかってください』…チラシに全てを綴りました。ご近所の人たちに一枚一枚、丁寧に配りました。一所懸命でした。

「なんでこんなことしなくちゃいけないんだろう」とチラシを配り終えたときに思いました。でも、次の日、大きな変化を感じ取ることが出来ました。

ご近所のおばさん、おじさんの目がいつもと違って見えたのです。いつもの視線と違い、「優しい視線」に感じました。今思えば、本当は「いつもと変わらない視線」で、私が都合の良いように受け止めただけかもしれません。でも、「そう見えた私」は、その時以来、臆していた気持ちを取り払い、積極的にご近所付き合いをしていこうという気持ちになりました。日を重ねるごとに、地域のみなさんと打ち解けていることが実感できました。

しかし、昨年、せっかくご近所に馴染みのできた住まい（アパート）を引越し、そこから２キロメートルばかり離れた土地へ転居することになりました。「ご近所付き合い、また一から」と、気負っていましたが、これまでのご近所さんが「何かあったら声をかけて…」と、かわるがわるに言ってくださいました。

また、その逆もあって、「住田さんがヨソへ行っちゃったら、私の子どもの面倒は誰がみてるんだ！？」とベソをかく若いママさんもいました。私には、くだんの息子以外に５人の子どもがいます。子どもが大好きな私は、「一人みるのも、二人みるのも同じ！連れておいで！託児してあげるから！」と、ご近所のお子たちの面倒（お母さんたちの面倒？）をみていました。転居してからも、その「面倒」は続いています。

転居前の「ご近所さん」の中に、私と対照的な人がいます。息子と同じ中学３年生男児のお母さん。その息子さんも我が息子と同様の障害をもっています。

私を「助けられ上手さん」とするならば、彼女は「助けられ下手さん」。そんな彼女のことが、私は気になってたまらないのです。彼女の息子さんは、我が息子と違い「手帳がもらえる子」です。

「いいなあ。手帳がもらえて。制度とか利用できるじゃん」と、彼女に話すのですが、「助けられ下手さん」の彼女は煮え切らない。そんな様子に「おせっかい」とは知りな

がら、つつい出しゃばって、彼女の代弁者になってしま  
うのです。

「アンタは、Aさん（彼女のこと）の保護者か？」と、  
口の悪い社会福祉協議会の酒井さんによく言われます。

酒井さんからは、「住田ママからは“助けられ下手さん”  
が寄り集まってくるオーラが出とるんじゃないか？」と言  
われたこともあります。

今、私には沢山の友だちがいます。私の周りには、沢山  
の人たちが集まってきます。何人かの友だちは、常に私に  
「助けて！」と言います。でも、私は全然嫌じゃありませ  
ん。

正直、いろいろありますが、「辛さ」を感じる時間よりも、  
「しあわせ」を感じる時間の方が多い今の暮らしを与えて  
くれたのは、息子のおかげだと思います。家族のおかげだ  
と思います。

私の息子は、障害をもっています。

その息子に「助けられた」おかげで、今の私があります。

これからも、息子に「助けて」もらおうと思っています。

もちろん、家族のみんなにも…。

